

# おいしい 自然園

菊川の石は、  
どこからきたのか？その2



2019年8月号では、菊川の支流にある大きな石の薄片を偏光顕微鏡で観察したところ、玄武岩の溶岩だったことを紹介しました。今回はこの石の化学分析を行い、石の由来を調べた結果を報告します。

化学分析を行うには、まず石を細かく砕いて粉にし、そこに特殊な薬剤を混ぜて1200度で熱し、ガラスの玉を作ります。このガラスの玉を蛍光X線分析装置という機械にかけて、石を構成する元素が数字で示されます。この値を既に化学成分が分かっている火山の溶岩と比較することで、調べたい溶岩の由来を調べていくのです。今回は3点の石を化学分析しましたが、結果はすべて明神ヶ岳の溶岩と一致しました。このことから、明神ヶ岳から流れ出た川は、南ではなく東の方向に流れて、現在の菊川が流れる場所まで石を運んだことが予想できたのです。



左：蛍光X線分析装置  
(県立生命の星・地球博物館)  
右中：岩石を砕いた粉末試料  
右下：ガラス玉 (ガラスビードと呼ぶ)